



## 片平地区防災訓練がありました

11月1日(日)、東北大学評定河原グラウンドにおいて、「片平地区災害に強いまちづくり委員会」主催で防災訓練がありました。一年以上前から、委員会にて議論を重ね計画をしてきた防災訓練が、秋晴れの中、無事に終了しました。関係のみなさま、大変お疲れ様でした。

片平消防出張所のご協力により、起震車体験や水消火器訓練、AED訓練、救助訓練、ロープを使った救助訓練など、実際に多くのことを体験することができました。また、片平消防団による放水訓練の見学などもあり、半日、大変充実した時間になったと思います。

展示ブースでは、市民センターによる防災ゲームや、県工の学生さんによる防災アプリの紹介もありました。

また、テントの中では、炊き出し訓練も行われ、宮城風、山形風の芋煮やワカメご飯のおふるまいもありました。東北大学に來ている留学生がつくったスパイシーチキンスープの味も抜群でした。

天気の良い日曜日だったこともあり、スポーツ少年団などの催しものも多かったのか、小学生の参加が少なく、とても残念でした。次回以降、是非ともお時間ある時にはご参加をお願いしたいと思います。

## 電子書籍で読書

読書をするなら実際の紙の本でないと嫌だなんて思っている一人でした。でもけっこう本は溜まっていくと大変です。本棚いっぱいになった本を眺めて満足するならともかく、整理に收拾がつかなくなってくると、けっこううんざりしてきます。

最初、電子書籍なんて・・・なんて思っていたのですが、使ってみると結構便利なことに気づきます。読書は主に寝る前が多いのですが、まず、電気スタンドが不要になります。バックライト付きの液晶を選ぶと、あかりはいらなくなるから便利です。また老眼が入っているので、フォントの大きさを何段階か大きくできるのです。そして、一番便利だと思うのは、そのまま寝てしまっても、最後のページを覚えてくれるのです。しおりを挟まなくてもいいというのが気に入っています。

書籍は通常はネットから購入することになるのですが、著者の没後50年を経て日本国内において著作権が消滅した作品は、青空文庫として自由に無料で読めるようになります。吉川英治作品が最



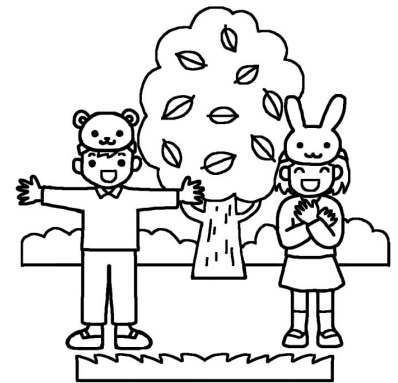
近出てきて、「三国志」や「新平家物語」など、昔読んだことがある作品を、読み直してみる楽しみもなかなかだなと思っています。わざわざ電子書籍のリーダーを購入しなくても、タブレットで代用できますから、読書好きの方はお試ししてみてもいいでしょう。

## 学芸会が終わりました

学芸会が終了しました。どの学年も、すべての子どもたちにスポットライトをあてようと、役割を考えたり構成を工夫したりして活動させました。お子さんの様子はいかがだったでしょうか。

各学年の演技を見ていて思い出したことがいくつかありました。

平成元年に片平丁小学校に転任してきた際、5年生の担任になり、学芸会では劇をすることになりました。指導を任されたので、「三コ（さんこ）」という物語に取り組むことにしました。どうせやるならダイナミックな演出で子どもたちにのびのびと演技させたいと思いました。大道具なども凝り、舞台だけではなく会場全部を使って演じさせました。三コが体育館のうしろにあったろく木の上から「うおー」と大声をあげ、そのまま観客の中を走って舞台上に駆け上がるというシーンは、今でもくっきりと心に残っています。



私が小学生の時は、今と違って子どもの数もずっと多かったので、学芸会といっても、舞台上がってセリフをいう子どもはほんの一握りでした。3年生の時に、なぜかその一握りの子どもに選ばれ、ほんのちょい役でしたが、舞台上に上がることになりました。今思うと声が大きかったからかなと思います。事前に小道具を家で作ってくるように先生から話がありました。私は鳥の役だったので、鳥の顔を描いたかぶりものを作ってくるようになっていました。その時にきちんと先生の説明を聞いてなかったのか、それとも説明用の資料がなかったのか、今となってはわかりませんが、自分一人だけ違うかぶりものを持って行ってしまったのです。他の子はハチマキのように頭に回した紙に鳥の絵をくっつけただけのものでしたが、私は頭にすっぽりかぶるようなヘルメット型でした。なんとなくバツが悪い思いをしたのを覚えています。でも、父親が悩んだ末につくってくれたものだったので、劇ではそのままその小道具を使いました。なんという劇だったのか、名前さえも覚えていませんが、その時の小道具のことが妙に忘れられません。今年の1年生のネズミさんたちも大変可愛い小道具でしたね。

学芸会で、私たちは子どもにいろいろなことを求めます。恥ずかしがらず人前できちんと演技する、工夫して伝わるよう表現する、美しさを感じながら音楽表現をする、などなど。つくりあげていく過程で、一人一人にそれぞれのドラマが生まれます。どちらかというあまり前に出てきたがらない子どもが、しっかりと演技ができ、周りからそれを認められた時、嬉しそうな顔を見せる時があります。失敗し、それでも繰り返し努力し、成功体験を積み上げていく。そんな営みの一環として、学芸会があるようにも思います。今年の学芸会が子どもたちの心に、いつまでも思い出として残ってくれたならと思います。